

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 408 号	氏名	椎木 啓文
学位審査委員	主査 尾野村 治 副査 畑山 範 副査 田中 正一		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、酸化メディエーターとして有用な TEMPO の持つ、やや安定性に欠ける、嵩高さのため基質適用範囲が制限されるという欠点を克服できる新しいアザビシクロ-N-オキシルを開発しようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 入手容易な環状アミンからアザビシクロ骨格への変換反応を開発できれば、目的のN-オキシルを効率的に合成できる有用な分子変換法となる。さらに、ヒドロキシプロリンやピペコリン酸を原料としてこのような変換が達成できれば、これまで例のない光学活性アザビシクロ-N-オキシルの簡便な合成法となる。 本研究では、環状アミンの電極酸化、選択的置換基導入反応や続くビシクロ環構築反応など独創的な手法を用いるものであり、またアザビシクロ-N-オキシルは TEMPO の構造上の欠点を補えるという独自の発想に基づくものであり、高く評価できる。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で検討した結果、入手容易な環状アミンからアザビシクロ骨格への変換反応を開発し、光学活性アザビシクロ骨格の構築にも成功した。得られたアザビシクロ-N-オキシルが安定で基質適用範囲の広い酸化メディエーターとして機能することも実証した。さらに光学活性N-オキシルを用いた2級アルコールの不斉酸化も達成した。以上の点から、これら研究結果と考察内容は高く評価できる。</p> <p>以上のように本論文は医薬品合成化学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(薬学)の学位に値するものと判断した。</p>			